
鬱金香(チューリップ)

しおさき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チユリツツ
鬱金香

【コード】

N5214D

【作者名】

しおさき

【あらすじ】

春に彼女の心が変化していく情景をメインに

少し冬らしさが消え、新しい意気込みに燃える春。

樹には桜がこれでもかというほど咲き誇り、その薄桃色の花弁がはらはらと散っている。

桜の花が散るのは綺麗だと思う。しかし今年は少し違った。生涯と一緒に過ごすと思っていた貴方がいなくなってしまったから。もう別れを告げられてから一週間たつのに私の心は空虚なままだ。時間が経てばどうにかなるといふのは人次第らしい。こうやって大好きな桜を見ていても、彼しか考えられないのだから。

泣きたいくらいに切ない時間は長く続いた。

花見はピークに達し、近くの公園も花見客で賑わっている。失恋したのにわざわざカップルが多い公園に行くなんて馬鹿げているので、あの日から公園には行っていない。

ふと隣の家の庭に目をやった。そこに植えてあるのは鬱金香だった。桜と同じで春を代表する花。色もたくさんあって、白は確か失恋…という花言葉だった気がする。

そういえば別れたときの服は白だったなあと小さく笑った。

赤の花言葉は愛の告白。紫の花言葉は永遠の愛。

まだ覚えていた。小学生くらいのときに調べてみた花言葉。小学生のうちには下らないことに色々時間を費やした。

そして分かりようのない疑問を沢山抱いた。それはきつと大事なことなのだろう。今はする時間がないで済ましてしまうけれど。

懐かしめば懐かしむほど色々思い出してくる。

昔親に聞いた言葉。

どうして鬱金香は蕾のままなの？と

母は花はちゃんと咲くのよ、花が咲く前が美しい花もあるのよ。だから蕾を皆買うの。と言っていた。

私も人間の中で言えば成人するとはいえ、精神的には未熟で社会の中では赤ん坊のようなものだ。私はまだ咲き誇っていない。蕾だ。美しいかは分からないがきつと蕾。

桜のように散り際が美しい人もいるのだろう。

きつと咲いている間だけ重宝され、呆気なく捨てられてしまう人も私はどれなのだろう。十人十色という言葉があるように、私は鬱金香かもしれないし、薔薇や石楠花、椿とか百合かもしれない。私はいつ咲くだろう。

そんなことを不意に考えていた。とても20歳過ぎの世間的には大人が考えることではない。ただ私の中には、今考えていたことは決して無駄なことではないと確信している自分がいた。

お母さんが聞いたら呆れられちゃう、と微かに苦笑してみた。

最近はずつと笑ってなかったかもしれない。

笑うと緊張が何となくほぐれた感じがした。

私は今まで、何に悩んでいたんだろう。私が見ていたのは過去の事実だった。未来が見えてなかった。春の花達は、これから続いている季節の前に、春の代表としてこんなにも美しく咲き誇っているのを見れば庭の鬱金香は白に混じって所々に赤いものがある。

私は白を咲かせてしまったから次は赤を咲かせる番だ。

思わず今まで着ていた服を脱ぎ捨て、外に出ていた。

上着は薄桃色のブラウスを、下には赤いスカートをはいて

end

(後書き)

処女作にして、即席で書いてしまったので多々読みにくいところがあるかと存じますが、頑張ってみました。情景を想像して楽しんでくださいますと幸いです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5214d/>

鬱金香(チューリップ)

2011年10月4日19時24分発行